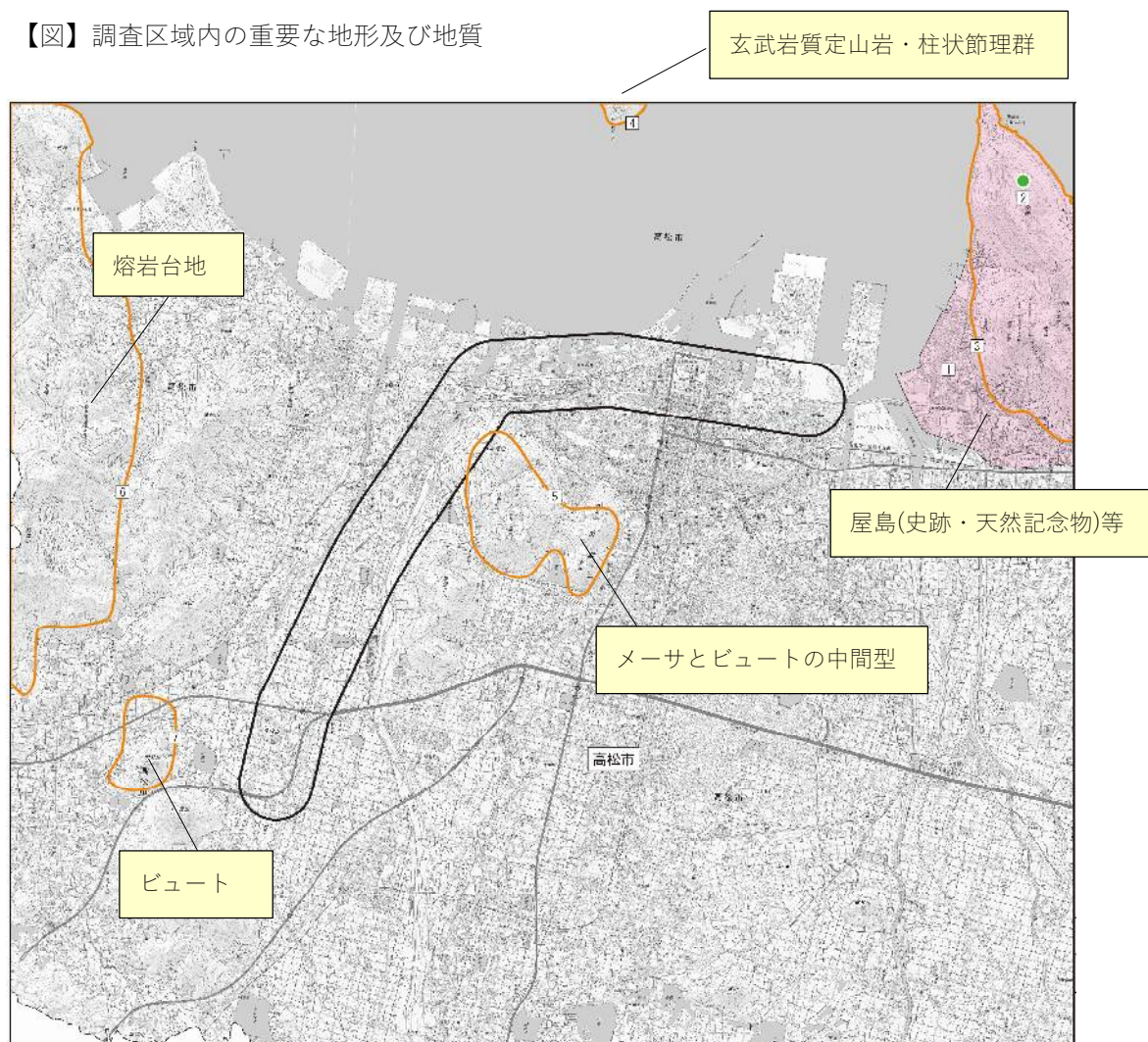


## ■準備書における地形及び地質の調査、予測及び評価の手法について

## ①調査、予測の対象となる地形及び地質

- ・「地形及び地質」の項目では、「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」（国土交通省 国土技術政策総合研究所、独立行政法人 土木研究所）に基づき、既存資料で確認された学術上又は希少性の観点から重要な地形及び地質について、事業による影響が及ぶ可能性がある範囲に存在するものを対象とします。
- ・本事業の場合、天然記念物である「屋島」や、第 1 回自然環境保全基礎調査すぐれた自然図（環境庁）に記載されている「メーサとビュートの中間型」「ビュート」等が対象になると考えられます。

【図】 調査区域内の重要な地形及び地質



出典：「高松環状道路（福岡町～檀紙町）環境影響評価方法書」（令和 8 年 4 月、香川県）

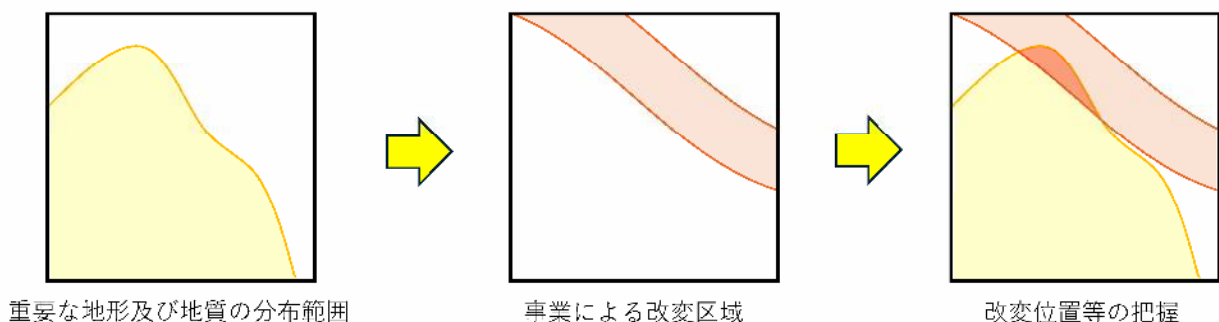
## ②調査の手法について

- ・調査は、主に既存資料の確認や現地踏査により行います。
- ・既存資料調査では、重要な地形及び地質の分布範囲や事業実施区域との位置関係、重要性の理由や特性、法令の指定状況等を把握します。
- ・加えて、現地踏査により、現在の保存状態や重要な地形及び地質の特性等を写真等により記録します。
- ・例えば、天然記念物の「屋島」については、高松市 HP において、「屋島の天然記念物としての主要な構成要素は、メサ地形、畳石、屋島礫層、屋島凝灰岩である。」と記載があることから、既存資料等によりこれらを確認できる場所を確認し、現地でその状況を記録することが考えられます。

## ③予測の手法について

- ・予測は、「地形改変に伴う消失又は縮小」と「地形及び地質に係る周辺環境条件の変化に伴う影響」の2つの観点で行います。
- ・「地形改変に伴う消失又は縮小」では、重要な地形及び地質の分布範囲と計画路線による改変区域を図面上で重ねあわせる等して解析し、重要な地形及び地質の改変の有無やその程度を把握します。

### 【図】 重ね合わせのイメージ



- ・また、「地形及び地質に係る周辺環境条件の変化に伴う影響」については、重要な地形及び地質の地形的又は地質的特性を踏まえて、計画路線による周辺環境条件の変化に伴う間接的な影響について、類似事例や科学的知見等に基づき予測します。
- ・例えば、砂丘等の脆弱な地形の場合、構造物による直接的な改変はなくても、構造物の設置によって風向等が変化することで間接的に影響が及ぶ可能性が挙げられます。

## ④評価の手法について

- ・評価は、調査及び予測結果等を踏まえて、事業による重要な地形及び地質への影響が、事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行います。